

迷惑メールの実態と 検討すべき課題・問題点について

平成19年 7月24日

社団法人テレコムサービス協会 サービス倫理委員会

委員長 桑子 博行

迷惑メールとは

○ 大きくいくつかのカテゴリーに分類すると

- ・ バイアグラ、シアリス等の薬品の違法販売
- ・ DVD、ソフトウェア等の違法コピー販売
- ・ 出会い系サイトへの勧誘
- ・ 株価操作を目的とした風説の流布
- ・ パチンコの代打ち屋勧誘等の詐欺
- ・ アルカイダ等政治目的の広告宣伝活動
- ・ フィッシング（詐欺的）メール

○ 最近の傾向として、

英語の迷惑メールではバイアグラ関連が一番多く、日本語の迷惑メールでは出会い系サイトへの勧誘が多いといわれている。仮に0.1%の人が反応すると考えた場合、100万人に配送すれば1000人も引っかかる換算になる。

○ 迷惑メールは受信したユーザだけでなく、受信するメールシステムに対しても多大な影響を与える。

米国では全メールの80%が迷惑メールといわれている現在、企業のメールシステムも宛先不明の大量メールを一旦受信したものの、エラーメールを返送できないままメールサーバー上で何千通も滞留し、配送遅延やサーバー停止を引き起こす危機に直面。

迷惑メール配布の仕組み

○ 加入しているISPのメールサーバーを使う方法

この手法では送信者の身元が簡単にわかってしまい、ISP側からすぐに対策をとられてしまうため、あまり長期間継続することができない。ただし、ISP側からインターネット接続自体の利用停止等の勧告があっても、すぐさま別のISPに移って送信する、いわゆる“ISPの渡り歩き”をしている悪徳業者も。

○ 送信者が自分でメールサーバーを構築し、ISPのメールサーバーを利用せずに送信する方法

この手法はISPのメールサーバーを利用してしないため、ISP側からなかなか発見されづらく、比較的使われている。メールサーバーを構築することが技術的なハードルとなる場合でも、誰かが作成したメール大量配信用のプログラムをインストールするだけで簡単に配信できてしまう。

○ セキュリティ対策の甘いメールサーバーを踏み台にして第三者中継する送信手法

メールサーバーのセキュリティ対策の強化が広がるにつれ減少傾向にあるが、未だにセキュリティ対策のされていないメールサーバーはインターネット上に無数に存在しているため、根絶はなかなか難しい。

○ 「ボットネット」に感染した一般のPC群を、第三者が操作して迷惑メール配信に利用する方法

現在送られる迷惑メールの約80%がボットネットに起因するという米国での調査結果もある。(ボットのプログラムは常に進化を続けており、プログラム自体が変体することによってウイルススキャンのプログラムから発見されにくくなっている。全世界では数百万台規模の命令を待つボットが、インターネット上に常時接続されている。)

迷惑メール送信者における送信先メールアドレスの収集方法の一 例

- ・ アンケート、懸賞サイト、無料ダウンロードサイト等の登録画面に入力されたメールアドレスを収集
- ・ カンファレンス、Expo等で景品プレゼント応募に投函した名刺からメールアドレスが漏れる
- ・ Webサイト等を自動で巡回してメールアドレスだけをリスト化するプログラムを利用、ブログやBBSに書き込まれたメールアドレス情報も収集
- ・ 特定のメールサーバーに片っ端からメールアドレスを入れ、エラーの戻らないメールアドレスをリスト化
- ・ スパイウェア、ウイルス等を使い、感染ユーザのメールソフトにあるアドレス帳情報を特定サーバーにアップロードさせて入手

(注) 電子メールのやりとりをしている限り、迷惑メールが届かない可能性は限りなく低い。また、メールアドレスのリストは迷惑メール送信者の間で頻繁に売買されているため、一度届きはじめるとその量は増加の一方をたどる。

迷惑メールの実態

迷惑メールの実態調査結果

(シマンテック、2006年3月8日発表)

	調査時期	
	2006. 1	2005. 1
迷惑メールについて 「どんなものかを理解している」 + 「なんとなく認識がある」	74. 4%	61. 1%
迷惑メール受信時の対策について【誤った対策】 「メール内の宛先に拒否する旨のメールを送る」	11. 4%	—
「メールに書かれたURL 内の拒否手続き等に従う」	11. 4%	—
迷惑メール対策について 「メールを見て、手動で削除」	57. 4%	—
「メーラーのフィルター機能」	32. 6%	24. 8%
「プロバイダ提供のフィルタリングサービス」	28. 1%	21. 1%
「メールをフィルタリングするソフトウェア」	13. 0%	9. 8%
迷惑メールの内容について 「出会い系サイトの宣伝」	51. 9%	24. 1%

迷惑メール対策において検討すべき課題・問題点

- 「迷惑」を超えた「被害」に
 - ・ フィッシング詐欺やスパイウェアへの誘導メールなども
 - ・ 迷惑メールの送信者は、ほとんどコスト負担がかからない
 - ・ 一方で、受信者および受信者側のプロバイダ等がコスト負担を強いられている
 - ・ また、迷惑メールの大量送信により、社会的に無秩序な状態が起きており、犯罪に巻き込まれる場合も

迷惑メールの蔓延

情報漏洩に対する不安

過度な個人情報保護の
要因にも

- 現状を考えると、オプトアウト方式の有効性には問題が
- 迷惑メール対策の有効性を考慮して、オプトイン方式の検討が必要では
 - ・ 営業の自由への制約に対する懸念はあるが
 - ・ 受信者の同意を得ないで、営業的な広告メールを一方向的に送信することが許されるのか（オプトアウト方式を悪用した状況が続いているのでは）
- ブラックリスト等の情報共有や個々の技術的対策には限界がある
- 利用者への周知啓発等に一層の工夫が必要では
 - ・ プロバイダ等による周知啓発の推進など